

令和6年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

- 高い志と夢を持ち、「知・徳・体」の調和のとれた、21世紀を担うことのできる有為な人材を育てる。
- 1 豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献できる人材を育成する学校
 - 2 社会の変化に迅速に対応できる機能的な組織運営に努め、他の学校の模範となる先進的な学校
 - 3 生徒、保護者、地域社会からの期待に応え、信頼される学校

2 中期的目標

- 1 豊かな人間性を持ち、国際感覚に富んだ、社会に貢献できる人材を育成する。
 - (1) 進学を重視した全日制普通科単位制高校として、これまで培ってきた本校の取組みの着実な維持とさらなる発展を図る。
 - ア 学習指導要領や高大接続改革への対応、生徒の進路実現を常に意識したカリキュラムマネジメント、「指導と評価」の研究等を行なうことで、社会で活用できる「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養に努める。また、1人1台端末の活用等による協働学習を推進し、課題解決能力、協調性を育む。
 - ※令和8年度において、学校教育自己診断(生徒)における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」について、85%を維持する。(R3：87%、R4：83%、R5：84%)
 - イ 本校での学習活動のみで、国公立大学や難関私立大学への現役合格に必要な学力を育成する。
 - ※令和8年度において、国公立大学現役合格者15%以上を継続できるようにする。(R3：15%、R4：12%、R5：11%)
 - ウ 土曜講習、長期休業中等の講習、週末課題等の内容を精査し、継続・発展させ、進路実現のための基礎固めを図る。
 - 1人1台端末等の活用による反転学習を取り入れた授業を推進し、家庭学習の定着を図る。
 - ※令和8年度において、一日平均学習時間(2年生10月)平日、休日をそれぞれ85分、120分以上とする。(R3：84分・131分、R4：83分、121分、R5：77分、107分)
 - エ 「槻の木NEXT STAGE」(企業訪問、高大連携、国際交流・海外研修、地域連携など)の取組みや体験・発表型学習によって、思考力・判断力・表現力等を育成し、社会で力強く活躍することができる力や人間性の涵養に努める。
 - (2)「規範なくして学力向上なし」を合い言葉に、高い志や倫理観と強い精神力を育て、学業と学校行事・部活動の両立のための支援と指導を行なう。また、安全安心に学校生活がおくれる環境を維持、発展させる。
 - ア スクールモットーである「あたりまえのことをあたりまえに」の実践をあらゆる場面で生徒に求め、学業と部活動・学校行事・生徒会活動等を両立できる文武両道の逞しい生徒を育てる。
 - ※令和8年度においても、遅刻者数府内最少の状況を維持する。
 - イ すべての教育活動を通じて安全で安心な学校を作り上げ、規範意識、自尊感情、人権意識の向上に努める。
 - (3)グローバル社会で活躍できる「知・徳・体」の調和のとれた人格の育成をめざし、学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木NEXT STAGE」等の取組みにより、社会で通じる礼儀やマナーを身につけさせるとともに、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。
 - ※令和8年度において、部活動参加者(1年生12月)90%以上を維持する。(R3：86%、R4：85%、R5：92%)
- 2 社会の動きに即応できる機能的な組織運営の実践とともに、安全・安心な教育環境の確保に努める。
 - (1) 機能的な組織運営による学校力の向上をめざし、授業改善、生徒指導、進路指導の充実に取り組む。
 - ア 教員相互の授業見学、授業アンケートを効果的に活用し、授業改善に取り組む。
 - イ 先進校視察、府教育センター研修などへの積極参加と研修成果の校内伝達などにより、教育力の向上と活性化を図る。
 - (2) 防災・減災教育の充実、生徒の安全確保、学校の安全管理に努めるとともに、緊急時においても学びが保障される体制の充実を図る。
- 3 生徒、保護者、地域社会からの期待に応え、信頼される教育活動を推進する。
 - (1) 生徒や保護者が本校を誇りに思い、地域社会からも信頼される教育活動を推進する。
 - (2) 広報活動、情報発信の充実に努め、本校への理解と協力、連携が得られる取組みを推進する。
 - ※令和8年度において、校長ブログ、部活動ブログの発信数を120、50以上とする。(R5：125、40)
- 4 校務運営の効率化と働き方改革を推進する。
 - (1) ICT機器の活用による校務の効率化を進め、教員がより多くの時間、生徒対応できるよう、業務のスクラップ&ビルドを進める。
 - (2) 働き方改革の趣旨を踏まえ、同僚性が自然に発揮され、教職員全員で効果的・効率的に校務に取り組む協働体制を構築するとともに、常に社会や学校を取り巻く情勢の変化に迅速に対応できるよう改善に努める。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析〔令和6年12月実施分〕	学校運営協議会からの意見
・昨年度、保護者対象はアンケート用紙配付に戻した。今年度は保護者対象のアンケートや欠席連絡はフォーム作成ツール(以下フォーム)を活用することにより、フォームの活用が浸透した。今年度はフォームでの回答と紙面での回答も可能とした(フォームの回答467件、紙面での回答100件)ため、回収率が高いものとなった。今後もフォームの積極的な利用を考えていきたい。 1. 学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現 ・「年間の学習指導計画について、各教科で話し合っている。」69.6%(昨年度81.8%)についての数値は下がったが、「指導内容について、他の教科の担当者と話し合う機会がある。」73.9%(昨年度63.6%)「各教科において、教材の精選・工夫を行っている。」100%(昨年度90.9%)の数値は上がっている。このことから、授業をよくするための工夫を継続して行っていると判断できる。 ・「学校として、読書指導に積極的に取り組んでいる。」21.7%(昨年度45.5%)となっており、図書委員を中心に本選びや本の紹介等を行っているが低い数値となっている。図書館の利用数を上昇させる取組み等も考え	【第1回 令和6年6月15日】 ◆「土曜講習」および「学校説明会」の見学 ・「土曜講習」：1年生15回、2年生14回、3年生13回/年予定 1年生前期は部活動を制限することで、参加を促進している。 ・「学校説明会」：校内で8日/年予定 ◆「令和6年度学校運営協議会名簿」「学校運営協議会 実施要項」「令和6年度学校経営計画及び学校評価」についての確認及び審議 ・学校の魅力を動画などで発信し、中学生や中学校の先生方に理解を深めてもらう。 ・中学校との連携を強化し、先生方に本校の取組みを理解してもらう機会を設ける。 ・生徒が楽しく学べる環境づくりに取組み、学校行くのが楽しいと感じられるよう努める。 ・教職員のストレス緩和策を検討し、やりがいを持って働ける環境を整備する。 ・外部の力(保護者のボランティア、教育産業など)の活用可能性を校内で検討する。 【第2回 令和6年10月25日】 ◆「令和6年度学校経営計画」進捗状況、「令和7年度の教科書採択」、「前期授業アンケート」結果について、説明及び審議

府立槻の木高等学校

ていく必要がある。 2. 規範意識、自尊感情、人権意識の向上 ・「学校は、教育方針をわかりやすく伝えている。」(保護者) 84.6% (昨年度 77.3%) 「学校は、保護者の願いに応える努力をしている。」(保護者) 82.1% (昨年度 74.1%) となっており、教職員は保護者の意見も踏まえたうえで教育活動を行えていることが示された。 ・「学校は、生活規律や学習規律などの基本的習慣の確立に力を入れている。」は生徒 95.3% (昨年度 92.6%) 保護者は 96.6% (昨年度 93.6%) 「規律を守った生活を送っている」は生徒 94.8% (昨年度 93.5%)、保護者 95.4% (昨年度 94.6%) 「先生は、まちがった行動を正す指導をしてくれる。」 94.0% (昨年度 92.0%) 保護者 92.6% (昨年 88.1%) で、高い評価を維持できている。 ・「学校はいじめなど私達(子ども)が困っていることに真剣に対応してくれる」は生徒 88.4% (昨年度 89.5%)、保護者 87.9% (昨年度 81.5%)、 「先生は、自分の悩みに親身になって応じてくれ、気軽に相談ができる。」生徒 73.2% (昨年度 81.2%)、保護者 87.1% (昨年度 84.7%) 「先生は、生徒の意見を聞いてくれる。」生徒 86.8% (昨年度 82.6%)、保護者 80.2% (昨年度 74.3%) で、高い評価を維持できている。 ・「今年の体育大会は、良かった。」は生徒 88.8% (昨年度 86.5%) 「今年の文化祭はよかった」は生徒 90.5% (昨年 85.7%)。 「修学旅行の内容は充実している」は 92.8% (昨年度 86.1%) で、体育大会・文化祭の満足度は高い。修学旅行に関しても、満足度が高い結果となった。今年度から行先を沖縄本島に戻した。 3. 学校力の向上 ・「校長は自らの教育理念や学校運営についての考え方を明らかにしている。」(教職員) 73.9% (昨年度 63.6%) 「学校運営に校長のリーダーシップが発揮されている。」(教職員) 65.2% (昨年度 45.5%) をはじめ「学校の教育活動について、教職員で日常的に話し合っている。」(教職員) 95.7% (昨年度 81.8%) と上昇していることから、管理職を含め教職員の同僚性が高まっている。 ・「校内研修組織が確立し、計画的に研修が実施されている。」(教職員) 82.6% (昨年度 63.6%) 「校内研修は、教育実践に役立つような内容となっている。」(教職員) 73.9% (昨年度 63.6%) と上昇している。校内研修の内容が本校の課題にマッチした内容となっており、教育活動に行かされている。 ・この学校では、府教育センター等が主催する研修に計画的に参加する体制が整っている。」(教職員) 69.6% (昨年度 81.8%) 「研修・研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。」(教職員) 60.9% (昨年度 72.7%) と下降している。研修に参加しやすい環境づくりや研修後の伝達に課題がある結果となった。	・槻の木高校に入学してくるような生徒は私立高校の無償化の影響で私学に流れている傾向にある。そのため、本校の志願者倍率は減少傾向にある。この対策として、クラブ活動を通しての中高連携の強化などが必要。 ・ホームページの更新等努力していると思うが、知りたい情報が探しやすい形態になっているか検討してほしい。 ・教員の時間外勤務の削減のため、デジタル採点の導入をしているが、どのようなものなのか詳しく説明した。 ・「共通テスト」は長い文章を読んで理解し、時にはグラフ等をおりまぜながら解答を求めているのに対し、「国公立二次入試」「私大入試」は従来通りの出題形式なため、入試対策の多様性が必要となり、生徒も大変になっている。 【第3回 令和7年2月8日】 ◆「土曜講習見学」 ◆「令和7年度学校経営計画」の承認及び協議 ・学校教育自己診断(生徒)では「学校へ行くのが楽しい」をはじめ、多くの項目で肯定的回答率が高く、また、昨年度より上昇しており、在校生の槻の木高校に対する満足度は高いといえる。近年、志願者が減少していることについては、少子化・授業料無償化等の影響も大きいが、槻の木高校の魅力をしっかり伝えていかななくてはならない。 ・体育大会や文化祭の広報動画の作成・公開、公式SNSの運用などは槻の木高校の魅力発信として、大いに期待できる。ただし、SNSについては、マイナスの側面もあるので、発信内容をしっかり精査する必要がある。
--	---

府立槻の木高等学校

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標【R5年度値】	自己評価
1 社会に貢献できる人材を育成する	(1) 学力及び学びに向かう力のさらなる向上と進路実現を支援する	(1) ア・新学習指導要領の完全実施を踏まえ、社会で活用できる「知識・技術」の習得、未知の状況に対応できる「思考力・判断力・表現力」の育成、学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性等」の涵養のため、「主体的・対話的で深い学び」の実現をめざして授業改善を進める。 ・生徒1人1台端末など、ICT機器の積極的な活用をいっそう推進するとともに、協働学習の場面を設ける。 ・新学習指導要領に係る教育課程の確実な実施、観点別学習状況の評価を適切に行う。 ・デジタル採点システムの活用を含め、定期考査等において、観点別の学力状況を分析する。 ・生徒の学力を学力生活実態調査等で分析し、生徒面談の充実を図ることなどを通して、進路実現を支援する。 ・キャリアパスポートを活用して職業観、勤労観育成のための取組みを行うとともに、校内での進路別説明会を行う等して進路指導の充実を図る。 イ・自学する意義をHRや学年集会等で啓発するとともに、反転学習を取り入れた授業を行い、課題、予習、復習等に進んで取り組ませ、授業外での学習時間の確保とその定着を図る。 ・学校図書館の更なる活用等を通じて読書習慣や自習習慣の定着を図る。 ウ・「槻の木NEXT STAGE」の取組みを継続し、企業、大学、地域と連携した体験・発表型進路学習を行う。	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)で「カリキュラムに係る満足度」85%以上を維持する。【88%】 ・学校教育自己診断(生徒)で「授業満足度」80%以上を維持する。【80%】 ・学校教育自己診断(生徒)における「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」を85%以上。【84%】 ・学習指導室(進路、教務)、学年、教科が協力して、進路実現を支援する。 ・国公立大学現役合格13%以上。【11%】 ・学校教育自己診断(生徒)で「進路について考える機会がある」90%以上を維持する。【93%】 イ・一日平均学習時間2年(10月)、平日、休日それぞれ、80分、110分以上。【77分、107分】 ウ・参加生徒の満足度95%以上を維持する。【100%】	(1) ア・学校教育自己診断(生徒)で「カリキュラムに係る満足度」は92.2%(◎) ・学校教育自己診断(生徒)で「授業満足度」84.3%(○) ・学校教育自己診断(生徒)で「授業で自分の考えをまとめたり発表する機会がある」88.9%(○) 生徒1人1台端末の活用等では、思考力・判断力・表現力を高める取組み、協働学習を取り入れた授業が増えた。 教員相互の授業見学、研究授業・協議、授業アンケートや観点別評価についての検討を継続的に実施した。 ・吟味サポート(国公立大学希望者への面接指導:60名登録)を1人当たり年5回実施した。国公立大学現役合格9%(△) 大学入学共通テストに「情報」が追加されたことにより私立大学希望者が増加した。 ・学校教育自己診断(生徒)で「進路について考える機会がある」95.0%(○) 科目選択、学習状況等の個別面談、キャリアパスポートを活用した進路面談等、年間総数2400回 イ・一日平均学習時間2年(10月)、平日・休日62分・92分(△) 週末課題(1・2年英数)、週テスト(2年英語)、毎日の学習計画表の提出、自習室活用推進等を行っているが、昨年度実績を大きく下回っている。一方、クラブ加入率が81.2%→89.0%、通塾率が35.8%→46.2%と増加しており、家庭で過ごす時間の減少と完全自学で学習する生徒の減少がみられる。家庭学習並びに自学自習の必要性を示し、モチベーションアップを図る指導をさらに強化していく。 ・5回(1/11現在)の図書館だよりの発行、掲示を行い、読書習慣の推進を図った。 ウ・大阪公立大訪問、立命館大留学生交流、科学研修[Spring-8・西はりま天文台]、東京大教授の講演等を実施。満足度100%(◎)
	(2) 高い志の育成と規範意識、自尊感情、人権意識の向上を図る	(2) ア・遅刻防止週間を設定する等、遅刻指導を充実し、遅刻数の府内最少レベルをめざす。 ・生徒の安全確保のため、自転車指導等の交通安全週間を設け、指導の充実を図る。 ・学校美化や教室清掃を習慣とし、学びの場としての学習環境整備に努める。 ・生徒1人1台端末の活用推進とあわせて、利用ルールの順守等、情報リテラシーの育成にも力を入れる。 イ・保健課を中心に関係教員が情報を共有し、スクールカウンセラーや関係機関との連携を推進して、一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援を行う。 ・人権意識の向上、教育相談活動の充実について、専門人材を活用した教職員研修等を実施し、指導力の向上を図る。	(2) ア・年間遅刻者数1000人以下。【1503人】 ・学校教育自己診断(生徒)で「規律を守った生活を送っている」95%以上を維持する。【94%】 イ・保健課を中心とした適切な教育相談体制による支援を継続する。 ・教職員研修を、人権意識の向上、教育相談活動の充実について各々実施する。 ・学校教育自己診断(教職員)で「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。」60%以上。【55%】	(2) ア・1285人昨年より減少したが目標値は到達できなかった(△) 遅刻防止キャンペーンを定期的に実施した。 目標値に未到達だが、遅刻者数は減少した。 ・学校教育自己診断(生徒)で「規律を守った生活を送っている」94.8%(○) ・定期的な自転車点検を含めた交通安全指導を行っている。 イ・支援教育をテーマに高槻支援学校教諭(特別支援教育士)による教員研修及び交流会を実施、また、配慮の必要な生徒の教育的ニーズを教員間で共有した。(○) 映画「ある精肉店のはなし」出演者による同和教育教員研修を実施した。 明治国際医療大学教授による職員救命救急(AED・エビペン)研修を実施した。 ・学校教育自己診断(教職員)で「人権尊重に関する様々な課題や指導方法について、全教職員で話し合っている。」63.6%(○) 今後も職員人権研修等の内容を精査し、人権意識向上に努める。
	(3) グローバル人材の育成を推進する	(3) ・「槻の木NEXT STAGE」の一環として国際交流に取り組む等、国際的な視野を育て、使える英語力の向上を図る。 ・学校行事、生徒会活動、部活動、「槻の木NEXT STAGE」等の取組みにより、主体性、自尊感情、人間関係調整力を育てる。	(3) ・姉妹校相互訪問、Web交流など、国際交流企画等を実施する。 ・学校教育自己診断(生徒)で「学校行事」に係る肯定的回答85%以上。【87%】 ・部活動参加者(1年生12月)90%以上を維持する。【92%】	(3) ・台湾陽明高校とのオンライン交流、韓国姉妹校との相互訪問を実施した。満足度100%(◎) ・学校教育自己診断(生徒)で「学校行事に係る肯定的回答」90.7%(◎) 2年修学旅行の内容について、肯定的な回答は94%。 ・1年生(12月)段階での部活動参加者82.4%(△) 学習との両立が難しくなり退部した生徒が多く出てしまった。 負担とならない部活動の在り方も検討していく必要がある。 ※両立ができている:75%→66%

府立槻の木高等学校

2 社会の動きに即応できる機能的な組織運営に努める	(1) 機能的な組織運営による学校力の向上を図る (2) 緊急時にも学びが保証される体制を構築する	(1) ア・教科会を定期的に開催して教科研修を行い、授業力の向上を図る。 ・研究授業、教員相互授業見学、教員研修を行う。 ・授業アンケート結果を効果的に活用し、授業改善に取り組む。 イ・先進校視察、府教育センター等の研修への参加と伝達研修、教職員研修、経験年数の少ない教員へのスキルアップ研修等により、授業力、人権意識など、総合的な教育力の向上と組織の活性化を図る。 ・日常的なOJTの推進に努め、経験年数の少ない教職員の育成体制の充実を図る。 ・カウンセリングマインドのある生徒指導を推進する。 (2) ・南海トラフ地震発生を想定した防災・減災教育の実施を含め、あらゆる危機管理事案に対し即応できる組織体制を構築する。	(1) ア・教員相互の授業見学、授業アンケート結果を踏まえた教科会での協議を全教科で年間2回実施する。 イ・伝達研修、教職員研修の実施。 ・学校教育自己診断(教職員)で、「研修内容に係る肯定的回答」70%以上。【64%】 ・学校教育自己診断(生徒)で、「生徒指導は納得できる」75%以上。【71%】 (2) ・保健課を中心とした防犯防災体制確立とあわせて、情報課を中心に、緊急時におけるオンライン授業の速やかな実施や、生徒1人1台端末の活用など、緊急時即応体制を構築する。	(1) ア・各教科で前期後期に1回ずつ研究授業を行い、その後報告研修を実施し、全教職員で共有した。(○) イ・伝達研修、教職員研修の実施。 ・学校教育自己診断(教職員)で、「研修内容に係る肯定的回答」75.0%(◎) ・学校教育自己診断(生徒)で、「生徒指導は納得できる」71.4%(△) 生徒の状況や事案の背景を踏まえた丁寧な指導を継続する。 (2) ・今年度は未実施であるが、1人1台端末を活用した授業配信環境は構築済みである。(○) ・大規模災害発生時の安否確認等について、フォーム作成ツール等を用いて行うことを想定している。(○)
3 生徒、保護者、地域からの期待に応え、信頼される教育活動を推進する	(1) 生徒、保護者、地域から信頼される学校づくりを推進する (2) 保護者・地域からの協力や連携の強化を図る	(1) ・授業公開、体育大会、文化祭、個人面談、進路説明会、PTA活動等を通じ、保護者の信頼をさらに得るよう努める。 ・施設設備の改善に努め、学習環境の充実を図る。 ・学校教育自己診断結果等を分析し、保護者や地域社会から期待され信頼される学校づくりの進捗状況を検証する。 (2) ・学校教育活動並びに本校の魅力について、ブログを含めたホームページやメールマガジンなどを通して、本校生徒・保護者、中学校、中学生・保護者、地域に発信し、学校への協力や連携が得られる環境づくりを進める。	(1) ・学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」生徒85%、保護者80%以上。【85%、80%】 ・学校教育自己診断「充実した学校生活を支えてくれる雰囲気がある」生徒85%、保護者80%以上。【88%、76%】 (2) ・校長ブログ発信数100以上。【125】 ・部活動ブログ発信数40以上。【40】 ・メールマガジン発信数50以上。【50】 ・校内学校説明会5回以上維持。【9回】 ・ホームページアクセス数9万回/年以上(250回/日相当)【未計】	(1) ・学校教育自己診断「学校へ行くのが楽しい」生徒87.2%(○)、保護者78.9%(△) ・学校教育自己診断「充実した学校生活を支えてくれる雰囲気がある」生徒91.3%(◎)、保護者81.7%(○) 保護者については、フォーム作成ツールと紙様式の両方で実施した。 ・体育大会、文化祭に、多くの保護者、中学生(文化祭)が来場した。 ・昨年度に続き2地区交流PTAソフトバレーボール大会に参加、社会見学会も実施できた。 (2) ・校長ブログ発信数91回(△) ・部活動ブログ発信数34回(△) ・メールマガジン(金曜日)50回(○) 保護者宛てに配付物等の連絡を行っている。 ・学校説明会9回(午前・午後の2部制)実施した。(○) ・ホームページアクセス数135回/日(△) 近年、生活様式雄変化からホームページの閲覧する機会が減少している。 ホームページでの情報発信に加え、公式SNSによる情報発信を実施した。
4 校務運営の効率化と働き方改革を推進する	(1) 校務運営の効率化や、業務の見直しを図る。 (2) 同僚性を高め、協働が推進される体制をつくる。	(1) ・ICT機器の活用を進め、教材の準備の効率化、会議時間の短縮などを行い、教職員が生徒に向き合う時間を確保する。あわせて、業務の見える化、業務分担の見直し・平準化など、校務運営の効率化を推進する。 ・全校一斉定時退庁日の確実な実施並びに部活動方針の順守、校務運営の効率化等により時間外勤務の削減を図り、働き方改革をいっそう推進する。 (2) ・コミュニケーションがとりやすい風通しの良い職場環境を作り、同僚性が自然に発揮され、効果的・効率的な協働が進む組織づくりをすすめる。	(1) ・学校教育自己診断(教職員)で、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしている」についての肯定的回答80%以上を維持。【82%】 ・時間外勤務月80時間以上の職員7人以下、100時間以上2人以下。【9.7人・2.6人】 (2) ・学校教育自己診断(教職員)で、「教職員間の相互理解」についての肯定的回答70%以上。【64%】	(1) ・学校教育自己診断(教職員)で、「教育活動全般にわたる評価を行い、次年度の計画に活かしているについての肯定的回答」73.5%(△) 日々の教育活動についてゆとりをもって検討できる時間を確保することが必要である。 ・時間外勤務月80時間以上の職員平均10.7人・100時間以上の職員平均5.0人(△) 想定外の対応が継続していることもあるが、学校運営の効率化の推進も引き続きの課題である。 (2) ・学校教育自己診断(教職員)で、「教職員間の相互理解についての肯定的回答」75.8%(◎)